

2022年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	ふしみ やすこ				
教員氏名	伏見 康子	職 位	准教授	学 位	博士（経営学）
アルファベット表記	Fushimi Yasuko				
専門分野		会計学			
研究課題	テーマ	簿記会計教育に関する研究			
	概要	簿記教育および会計教育のあり方について研究を続けている。本学で学んだ会計学や簿記の知識を、実際の企業活動や企業人としての業務活動などの実践の場において、より適切に活用できるような人材の育成を目指す。そのためのカリキュラムや講義内容、さらに具体的な教授法について検討していく。			
本年度 研究業績	研究費	総額： 150,000 円 内訳：個人研究費 150,000 円 / 科学研究費 円 そ の 他 円			
	研究テーマ	簿記教育、会計教育			
	経過と到達点	<p>今年度は、すべての科目で対面授業であったため、学生が主体的に考える機会を積極的に取り入れる授業展開を検討した。</p> <p>会計学入門では、Google フォームを利用し、学生への質問と回答の回収を行い、回答の集約結果をすぐに全体へ共有した。先にテキストの説明をするのではなく、検討すべき課題を提示して、まずは学生自身に答えを考えさせる。このような双方向型の授業をとおして、学生の参加意欲も高まり、全体の意見が見えることで学生自身も多くの発見を得られていた。また、個別のコメントを提示することもでき、より理解を深めることができたとの意見も学生から得られた。</p> <p>簿記の授業においては、当初は昨年度のオンデマンド教材を活用し反転授業に取り組む予定であったが、テキストの内容が一部改訂されその修正が困難であったため、これまでの授業時間内に説明を行い、復習として課題に取り組みせる形態で行った。毎回の授業で前回の確認テストを行い、学生自身に採点と振り返りをさせることで、簿記の技術を身に着けるための復習の重要性を学生が意識できるようになった。今後は、反転授業の取組みについても検討していきたい。</p>			

(1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等					
⑦学会での口頭発表、討論者(ディスカッサント)	持続可能な社会に向けた会計教育	2021年9月	単	京都経済短期大学経営・情報学会	本報告では、持続可能な社会に向けて SDGs を意識した学びを、会計教育のなかでどのように取り入れることができるかを検討し、取り組み例を提案した。会計報告が、財務情報に加えて非財務情報にまで拡大していることは近年の大きな変化であり、株主だけではなく幅広いステークホルダーを意識した会計報告が重要になってきている。

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・共訳書	持続可能な社会に向けて	2023年3月刊行予定	晃洋書房	京都経済短期大学経営・情報学会30周年記念誌として発行予定。
⑨単著書・単訳書				

(3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				

⑫共同研究 (分担研究)				
⑬科学研究 助成事業(日 本学術振興 会)申請				

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
	講義	初級簿記、簿記特講Ⅰ、財務会計論	簿記特講Ⅱ、会計学入門、 中級簿記Ⅰ
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目	<p>簿記科目では、非常勤講師も含めた担当者5名との打合せを密に行い、協力体制を構築して授業を実施してきた。とくに、今年度は後期の簿記特講Ⅱにおいて、近年に難易度が高くなっている日商簿記検定2級の対策も意識し、3級の知識の確実な定着と進んでいる学生に対しては2級の内容を取り上げた講義も行った。</p> <p>会計学入門や財務会計論などの理論科目では、教員がテキストを解説するだけでなく、会計実務におけるさまざまな課題について質問を準備し、学生に「どれが良いか、答えとその答えを選択した理由を説明せよ」という問いに答えてもらった。これによって、受講生は受け身で参加するのではなく、自発的に考えていくことが増え、授業へのコミットも高くなった。「考えることが面白かった」「いろいろな意見があることがわかった」というコメントが多く見られた。今後の会計実務では、数ある選択肢から各社の経営により適した方法を選択する能力が重要であり、その意識を養成することができたと思う。</p>	
	◆ 演習科目	<p>1回生の基礎ゼミナールでは、ほぼ毎回のゼミでグループを作って学生が時間管理をしながら意見交換を行い、全員の前で発表するなど、学生の自立や主体的な姿勢の養成を図った。その結果、学生が主体的に運営し、様々な意見や考え方が理解し、自主的に発言もできるようになった。</p> <p>2回生のゼミナールⅡおよびⅢでは、毎月1回のペースで卒業論文を発表し合い、学生が中心となって質疑応答をするよう進めた。回を重ねるにつれて発言の内容が深いものとなり、論文の内容を深めることができた。ゼミの時間だけでは十分な指導ができないため、7チームそれぞれに対してゼミ時間外での個別指導を行った。</p> <p>ゼミナールⅠでは、秋華祭の模擬店を具体的な題材として簿記・会計や経営について理解を深めさせるよう取り組んだ。多くの場面でグループを作り、さまざまなテーマについて議論し発表する活動を取り入れ、主体的に考えて発言する機会を増やした。</p>	
	実習科目		

	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。） 会計学入門の事後課題や授業内課題としてのクイズや復習問題の作成。 簿記の練習問題の作成。
--	--

(1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

(1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	

(2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

(3) 講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	大阪高等学校「進学前教育（特別講座）」のプログラムにおいて、「簿記入門」の講師として講演（2022年11月8日、22日、各日14:20～15:25）。

4. 特記事項（本年度のみ）

勉強会や課外活動を下記の通り実施した（予定も含む）。

- ① 簿記検定対策勉強会（9月2日～16日、5回実施：希望者、ゼミ生以外も含む）
- ② ゼミ内卒論発表会、1・2回生交流会（2022年12月6日（火）9:50～14:30）
- ③ 2月簿記検定勉強会（受験予定者・他希望者、2023年2月3日～24日、7回予定、各2時間）
- ④ 工場・企業見学（4チームに分かれて実施：2023年2月20日サントリー京都ビール工場、2023年3月28日大阪取引所、2023年2月27日明治製菓大阪工場、）

高槻市子ども会連合会 監事（一般会計および特別会計の中間監査および決算監査を行った）

京都経済短期生協 監事